

# 公益財団法人ひろしまドナーバンク 平成25年度事業実施報告書

平成25年4月1日付けを持って懸案の「公益財団法人」に正式に移行し、その後6月14日に「税額控除に係る証明書」の交付を受け、新しい諸規程に基づき運営並びに活動を積極的に取り組んで参りました。

献眼に関しましては、本年度全国的にも927件と一昨年度に比べて若干増加しておりますが、広島県においては19件と、ここ3年予定数を大きく下回る状況にあります。献腎を含めた臓器提供に関しては、幸い本県では脳死下での臓器提供と献腎を含めて3件と若干他県よりも多いですが、全国的には一時期程の多臓器提供の勢いは無く、献腎件数に至っては従来では考えられない多臓器提供数よりも少ない32例という結果でした。更に、改正臓器移植法において15歳未満の児童・生徒の臓器提供の道が開かれたとは言いながら、現在までに該当提供数は僅かに4例であるため、募金を集め海外への渡航移植に期待を寄せる事例が後を絶たない状況にあります。その背景を考えますと、「保護者の深い悲嘆状況の中での提供意思の確認の難しさ」と「児童虐待の有無を臓器提供施設に判断させることへの煩わしさ」があるものと推測しています。

また、骨髄ドナー登録者においても、全国的に対前年比で略5千人減少しており、本県でも説明員の増加は認められるものの、相変わらずの登録者の伸び悩みの状況が続いています。特に、固定施設における登録者の伸び悩み傾向が顕著で、広く一般県民への理解と協力を得る活動が求められています。

このように、基本的には一般県民に対する啓発活動が不十分によるものと考えますが、明快な対策が打ち出せない状況の中で、本年度は特に臓器提供関係において、運転免許証での意思表示への啓発のため、免許センター等へのアプローチを実施するとともに、健康保険証での意思表示の促進策として、中国地方では島根県、鳥取県に続き、本県でも県内1,600薬局にポスター等の貼付をお願い致しました。

このような状況の中で、本年度次のような具体的な活動を行った。

## I. 管理部門

当バンクの事業を将来に亘って継続して実践するためには、活動資金の確保が不可欠であり、従来同様ライオンズクラブ等の支援団体からの寄附

金及び眼科医療機関等に設置して頂いている募金箱からの浄財のほか、「ひろしまドナーバンク支援自販機」による寄附金の確保のため、その設置促進にも取り組んだ。特に後者では、新たに「荒木脳神経外科病院」「二階堂眼科」に設置して頂き、合計22台になった。

その他、公益財団法人への移行に伴い「税額控除対象法人」として税務署、顧問税理士、広島銀行などとの調整により、税額控除に関する対応について検討し、賛助会費振込用紙に「税額控除に係る証明書」を明記するなどの必要な取り組みを行った。

### 1. 一般寄付金

**7, 310, 594円**

ライオンズクラブ国際協会336-C地区 様	3, 000, 000円
社会貢献自販機(下記内訳のとおり22台分)	2, 353, 641円
平田敏夫様	1, 000, 000円
広島クレフ 福島 弘様	256, 500円
地域デザイン研究所(自動販売機)	185, 000円
医療法人辰川会山陽病院 様	107, 750円
住村チサエ様	100, 000円
広島市医師会(チャリティゴルフ大会) 様	79, 000円
茶谷信子様	50, 000円
広島鉄道病院(自動販売機) 様	42, 905円
末光千代子様	30, 000円
佐田ヤスエ様	20, 000円
保久早苗様	20, 000円
薄井光二様	20, 000円
広銀ボランティア口座(64件)	17, 378円
垣内しげ美様	10, 000円
曾根隆志様	9, 000円
島田登代子様	5, 000円
西森和友様	3, 000円
加藤良隆様	1, 420円

### ○社会貢献自販機による寄附金

**2, 353, 641円**

設 置 場 所	台 数	金 額
広島医師会館(屋外・3階)	2台	52, 797
広島大学病院敷地内 (薬学棟・第3中央診療棟・広仁会館・霞体育館)	4台	899, 600

フジタ（広島赤十字・原爆病院改築工事現場）	1台	53,098
広島スカイクリニック	1台	45,728
※株式会社ニシキタクシー	1台	95,484
J A広島総合病院	1台	14,806
中国労災病院	1台	429,882
ペットショップ高山	1台	12,225
★木村眼科内科病院（外来受付・従業員用・食堂） （紙コップ）	3台 1台	372,022 81,113
三次中央病院	1台	78,650
★つまもと眼科	1台	21,479
安佐医師会館	1台	2,993
安田病院	1台	124,613
荒木脳神経外科病院	1台	15,792
合 計	22台	

注) ※印は通常の自販機、★印はアイバンク仕様の自販機、それ以外の自販機は臓器用のネットワーク仕様のもの

## 2. 募金箱（38施設）

1,292,690円

施設名	金額	施設名	金額
しみず眼科医院	177,654	白石眼科医院	24,720
日谷眼科	100,000	高陽ニュータウン病院	22,901
石田眼科医院	85,725	古吉眼科医院	22,557
藤武眼科	70,425	つるが眼科	22,553
セントラル眼科	64,268	高山眼科	18,971
かたぎり眼科	54,772	岸本眼科・海田市薬局	16,833
土谷総合病院	53,304	おの眼科	15,399
二階堂眼科	47,582	山代眼科医院	15,194
井上眼科医院	43,357	平田眼科（熊野）	15,095
木村眼科内科病院	39,363	山中眼科医院	13,719
藤原眼科	37,934	奈良井眼科	12,629
眼科日山医院	37,795	加藤眼科	12,370
井之川眼科医院	36,539	木村神経内科クリニック	11,962
竹田眼科医院	34,441	たんきょう眼科	10,521
阿品土谷病院	33,134	みなもと眼科	9,133
生塩眼科	29,229	ひらた眼科	5,516

森本医院	29,180	本郷中央病院	5,476
岡田眼科医院	27,981	まつなが眼科	5,184
小島病院	25,304	尾道クリニック	4,000
		合 計	1,292,690

### 3. 賛助会員 3,126,000円

法人会員 168口 (1,680,000円)

個人会員 482口 (1,446,000円)

## II. 事業部門

### 1. 献眼移植のあっせん事業

#### 1) 角膜提供者の募集及び登録に関する事業 (定款第4条第1号)

①原則として献眼が本人の生前の意思表示を背景に行われることから、本年度も例年同様献眼についての啓発・普及用のポスター、パンフレット及び献眼申込書を購入或いは作成し、広島県、市町、ライオンズクラブ、広島県眼科医会、角膜移植手術実施医療機関等を通じて県民への頒布を依頼し、献眼登録者の確保を通じての献眼推進運動を展開した。

ただし、法律の改正により「自由配布制の臓器提供意思表示カードの導入」「健康保険証及び運転免許証で意思表示が可能になったこと」による献眼登録者の伸び悩みの状況が続いていることに苦慮している。

◎ポスター 献眼 300部購入 (日本アイバンク協会)

◎パンフレット (献眼) 10,000部作成

◎献眼登録申込書 15,000部作成

②各地ライオンズクラブが実施する献眼推進運動にパネル、幟の貸し出しなどの必要な支援活動を行った。

特に、本年度は呉ライオンズクラブ主催の「眼と心の市民講座」、三原浮城ライオンズクラブCN50周年記念事業での「献眼ブースの常設設置」に係る掲示用パネル、手製のチラシの提供などの協力、支援を行った。

◎パネル利用状況 角膜 9回 腎臓 2回

呉ブルーLC(4/17～19)、木村眼科内科病院(4/19～21)、

呉うるめLC(4/26～30)、竹原LC(9/27～30)、目の健康講座(9/29)、

東広島セントラルLC(10/4～7)、三原浮城LC(10/25～28)、

北広島大朝LC(11/1～5)、呉安浦LC(11/1～18)、

◎のぼり利用状況 3回

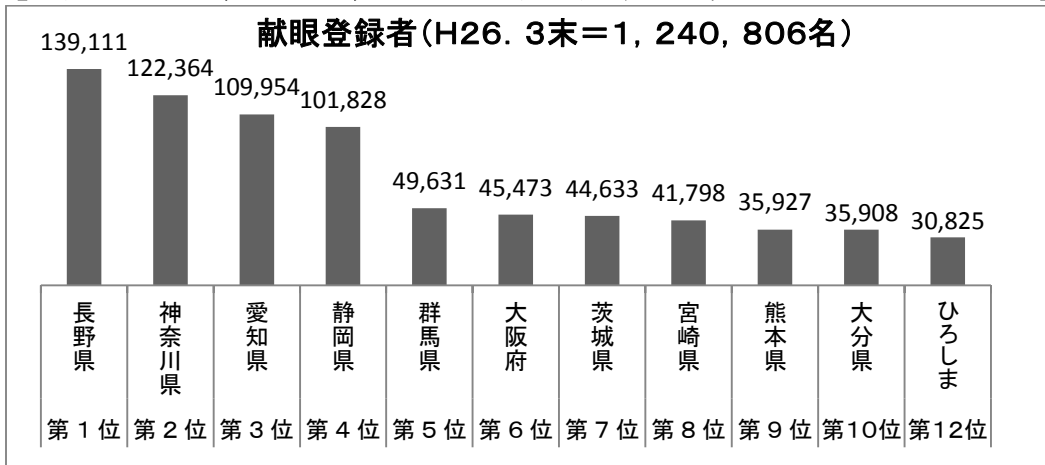
呉ブルーLC(4/17~19)、福山久松 LC(5/17~20)、  
三原浮城 LC(2/5~11)

③「出前講座」とともに広島県眼科医会主催の「目の健康講座」に参加し、献眼登録を始めとした移植医療の普及啓発に努めた。2回  
「目の健康講座」(9/29) 「呉ポータルライオンズクラブ例会」(12/5)

**献眼登録者 30,825名 (196名増)**

前年度末登録者数	30,629名
新規登録者数	370名
献眼者数	19名
取消数(転出・死亡等)	155名
3月末登録者数	30,825名

**【全国総数=1,240,806名、全国第12位(26年3月末時点)】**

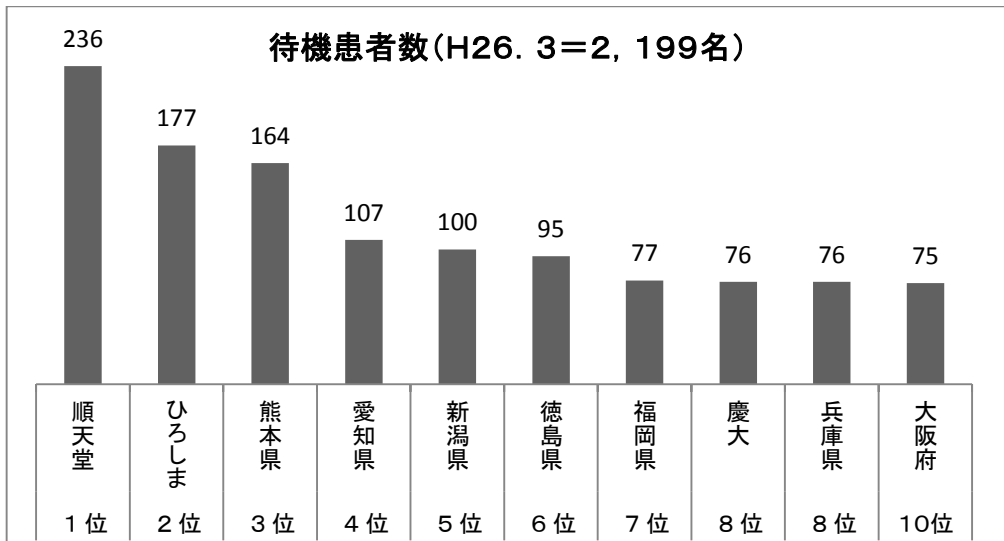


2) 角膜移植希望者の募集及び登録に関する事業 (定款第4条第2号)

角膜移植希望者の募集は、従来どおり角膜移植手術実施医療機関に受付窓口を設置し、角膜の障害による患者からの募集登録を行った。本年度も登録及び管理業務は直接バンクが担当した

**広島県の角膜移植希望者 177名(181眼) - (11名・11眼増)**

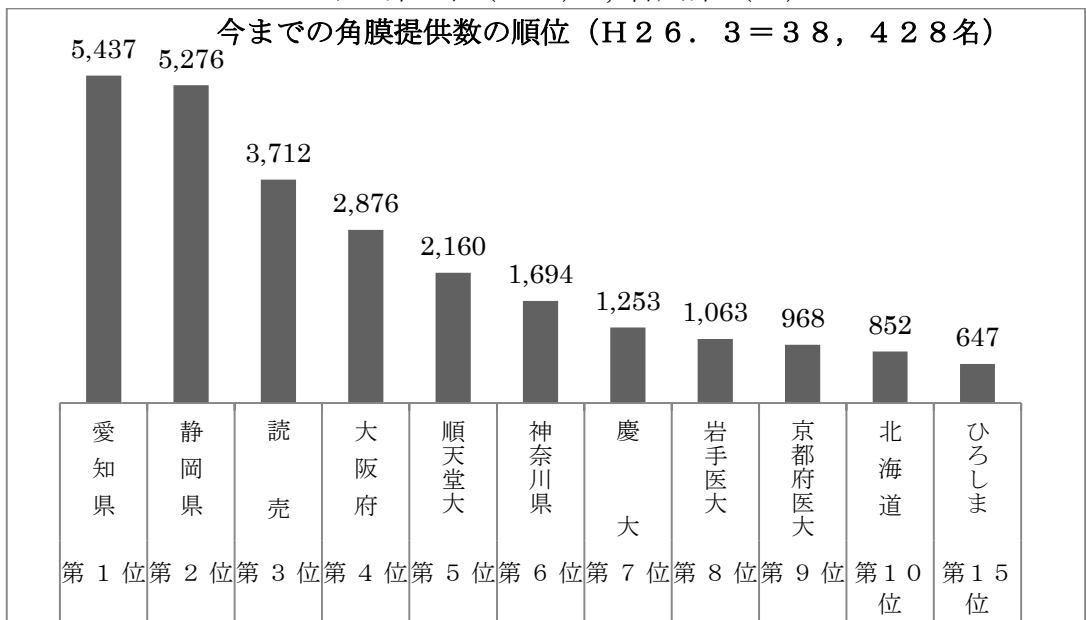
前年度末 手術希望者数	166名 (170眼)
新規 手術希望者数	51名 (51眼)
移植角膜数	39名 (39眼)
希望取消数	1名 (1眼)
3月末 手術希望者数累計	177名 (181眼)



**3) 摘出角膜のあっせん及び保存に関する事業 (定款第4条第4号)**

本年度にご提供頂いた角膜は次のとおりで、このところ伸び悩みの状況が認められるが、提供された角膜及び県外角膜を県内2施設にあっせんした。

- ① 献眼数 **19名38眼 (保存眼等3眼)**
- ② あっせん数 **40眼 (前年度保存眼4眼、県外分1眼を含む)**
- ③ あっせん先 **ア 県内 (39) ; 木村眼科内科病院 (20)**  
**広島大学病院 (19)**  
**イ 県外 (1) ; 香川県 (1)**



◆全国及び中四国地方の献眼状況【全国通算献眼者数＝38,428名】

献眼者数	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
全 国	1,081	1,009	891	927
鳥 取 県	4	3	2	1
島 根 県	3	2	8	9
岡 山 県	8	3	8	3
広 島 県	31	22	17	19
山 口 県	16	5	14	20
徳 島 県	5	6	1	3
香 川 県	8	8	8	1
愛 媛 県	6	8	3	3
高 知 県	3	5	2	4

4) 献眼・献腎を含め臓器提供者への敬弔

献眼及び献腎等臓器を提供された方に対して、ご葬儀の席上などにおいてホストライオンズクラブ或いは広島県臓器移植コーディネーターを通じて感謝状の贈呈を行い、敬意を表するとともに、弔電、花輪或いは香典をお供えして弔意を表明した。また、同様な方法により厚生労働大臣の感謝状に供物を添えて遺族に伝達した。

①献眼者 19名（厚労大臣感謝状伝達17名、辞退1名）

②献腎者(含む脳死提供) 3名（ ” ” 2名、辞退1名）

2. 移植医療の推進に関する普及啓発事業

1) 移植医療に関する知識の普及啓発に関する事業（定款第4条第3号）

献眼に係る啓発活動については、主として「献眼のあっせん事業」において実践し、その他の臓器等に対する一般県民に対する普及啓発活動をこの事業の中で実施した。

①一般県民に対する普及啓発活動

ア ホームページを活用して広く一般県民に対して移植医療に関する情報を提供しているところですが、財政的に厳しいため中々更新が出来ない状況にあります。そのような状況の中で、本年度は、税額控除対象法人となったことを受けて、賛助会費を含めた寄附金控除に関する取扱いについてアップした。

イ パネル等啓発グッズの作成とその貸し出し等を行った。

広島県臓器移植コーディネーターが地域の健康祭り等にパネル等

啓発グッズの貸し出しを行うとともに、自ら出向き臓器提供・移植に関する啓発活動に従事した。 2回

三原健康福祉祭り(10/26) 尾道健康祭り(11/10)

ウ 講師等の派遣を行う出前講座に関して、広島県臓器移植コーディネーターが、臓器提供・移植に関する説明を下記のとおり高等学校、職場に出向いて行った 11回

終活ステーション広島：職員研修会(9/24、11/22)

観音高校(9/26)、海田高校(2/18=2回)、積極人間の集い(2/21)

(株)アトリエメルシー託児施設職員研修会(12/27)

皆実高校衛生看護学科(3/4)、皆実高校専攻科(3/11)

社会福祉士勉強会(3/28)、広島大学病院手術室勉強会(3/20)

エ ライオンズクラブ会員に更なる献眼推進運動への理解と協力を得るため、「日本アイバンク協会認定サポーター講習会」を開催し、74名がサポーターとして認定を受けた。

i 日時：平成26年2月13日(木・祝)午後2時30分～

ii 場所：広島医師会館 3階 健康教育室

iii 講習

・献眼推進運動とサポーターの役割について

公財)日本アイバンク協会認定チーフサポーター

猪原恒男

・角膜摘出方法と最新の角膜移植術について

広島大学病院眼科診療医師 井之川 宗 右

・ライオンズクラブは何故献眼推進運動に取り組みなければならないか

福山久松ライオンズクラブ 池原 堅

iv 参加者：74名

オ 厚生労働大臣及び広島県知事が感謝状を贈呈する移植医療に係る功労者の推薦を行い、受賞された。当バンク以外に広島大学からの推薦を受けて、視覚病態学の木内良明教授が厚生労働大臣の、消化器・移植外科学の小林 剛先生、小児科学の川口浩史先生が県知事の感謝状を受賞された。

i 「臓器移植対策推進功労者」(厚生労働大臣)

大 段 秀 樹 広島大学大学院医歯薬保健学研究院

応用生命科学部門消化器・移植外科学教授

(バンク理事)

ii 「臓器移植推進功労者」(広島県知事)



—個人の部—

- 山 代 浩 人 広島県眼科医会前会長（バンク監事）
- 尾 上 隆 司 独立行政法人国立病院機構  
呉医療センター 臨床研究部研究室長
- 保 久 早 苗 東広島ウエストライオンズクラブ元会長  
（バンク献眼推進委員会委員）

—団 体—

- 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター
- 広島国際大学骨髄バンク推進委員会「しずく」
- 福山久松ライオンズクラブ

カ その他の啓発活動

- i 献眼及び臓器提供・移植に関する社会貢献自販機を積極的に設置して頂くことにより、ポスター的な意味合いでの移植医療の普及啓発を行った。

新規設置施設＝荒木脳神経外科病院、二階堂眼科

- ii マスコミを通じての普及啓発活動も実施した。

広島県臓器移植コーディネーター等がマスコミからの取材、特に、テレビ新広島（TSS）には、臓器移植に関する特集を組むとのことから頻回に訪問取材を受けた。

◎テレビ新広島（TSS）

- 平成25年10月 6日

骨髄バンク普及推進月間行事（イオンモール広島府中）

- 平成25年10月 8日

移植医療の特集

（運転免許証による意思表示の奨めとC oの活動紹介）

- 平成25年10月23日

広島県知事臓器移植推進功労者感謝状贈呈式

- 平成25年10月27日

「みんなとともに考える『いのちのリレー』

全腎協臓器移植フォーラム in ひろしま2013」

◎中国放送（RCC）

- 平成25年10月21日

献眼ブース常設展示場開所式

◎朝日新聞

○平成25年12月14日

「わたしを生きるー最後の医療はー」シリーズ

## ②啓発用のポスター及びパンフレット等の作成及び配布

（公社）日本臓器移植ネットワーク並びに（公財）日本骨髄バンク（旧：骨髄移植推進財団）から提供を受けたポスター、パンフレットの配布により、啓発活動を展開した。

ア 「臓器提供意思表示カード」の配布 1,800部

主に臓器移植普及推進月間中のNPO広島県腎友会が主催するキャンペーンを中心にカードの配布を行った。

### ◆献腎登録者 9,147名（25名減）

前年度末登録者数	9,172名
新規登録者数	2名
献腎者数	2名
取消数（転出・死亡等）	25名
3月末登録者数	9,147名

イ 「ひろしまドナーバンクだより第22号」（2万500部）を発刊し、献眼・献腎登録者、賛助会員、ライオンズクラブ及び骨髄関係者に配布した。

ウ 移植医療に関する啓発グッズの改訂或いは作成して関係方面に配布した。

健康保険証及び運転免許証での臓器提供の意思表示が出来ることになったため、独自のポスター及びチラシを作成し、広島県運転免許センター等に配布のうえ活用してもらった。これに関して、テレビ新広島（TSS）において、テレビ放映をして頂いた。

また、中央からの通達との関係から「広島県薬剤師会」を通じて凡そ県内1,600店の薬局にポスター等の貼付を依頼し、意思表示に関する記入促進に努めるとともに、一部手製の献眼・献腎（多臓器を含む）並びに骨髄ドナー登録に関するパンフレットを作成し、イベント等で活用して頂いた。

ポスター 100部 チラシ 20,000部

## ③普及啓発行事の開催・参加

10月の臓器移植普及啓発月間並びに骨髄バンク普及推進月間行事にNPO法人広島県腎友会、ボランティア団体との連携の中で、移植医療の推進に係る活動を展開した。

ア NPO法人広島県腎友会主催の街頭キャンペーン及び「みんなとともに考える『いのちのリレー』全腎協臓器移植フォーラム in ひろしま 2013」に対して後援、配布資料の提供とともに、広島県臓器移植コーディネーターがパネルディスカッションに参加するなどの協力を行った。

と き：平成25年10月27日（日）

ところ：中国新聞社ホール

内 容：○講演「医療講演」

大段秀樹広島大学大学院消化器・移植外科教授

○パネルディスカッション

○えてがみコンテスト表彰式

イ 例年同様、広島県及び広島市などとともに「イオンモール広島府中」の協力のもと「骨髄パネル展」及び骨髄ドナー登録会を実施した。

○と き：平成25年 9月30日（月）～10月 6日（日）

○ところ：イオンモール広島府中 1階 スターギャラリー

○内 容：パネル展、風船及びチラシを挟んだティッシュの配布、  
集団登録会（新規登録者29名）

## 2) 献眼・献腎・造血幹細胞移植並びにその他臓器移植の推進に関する事業 （定款第4条第7号）

本事業のうち、特に造血幹細胞移植の推進のため、広島県骨髄データセンター（広島県赤十字血液センター）、広島県、広島市と患者家族の会「つばさの会」「がんの子供を守る会」「広島国際大学骨髄バンク推進委員会『しずく』」などボランティア団体との連携を基本とし、骨髄ドナー登録者の確保事業に取り組んだ。

また、本年度は、今まで説明員が少なかった呉地域に新たに4名の方が委嘱を受け、6名となったことにより、呉地域での登録会が増加した。

① 説明員養成研修会並びに実施研修会等を開催し、新たに11名の方に説明員の資格を取得して頂くとともに、今後の活動に関する説明を行った。

5回

ア 養成研修会（7/19、8/5） イ 実地研修会（9/18、10/2、10/6）

② 骨髄ドナー登録者の確保対策への協力。

（公財）日本骨髄バンク（旧：骨髄移植推進財団）等が主体として、実施する）骨髄ドナー登録者の確保のため、骨髄ドナー登録会を31回開催し、255名の方に新たに登録して頂いた。

登 録 会		回 数	登 録 者	今後の予定
事 前 説 明 会	昨年度	0回	0名	0回
	本年度	1回	10名	0回
集 団 登 録 会	昨年度	7回	81回	0回
	本年度	5回	58名	0回
献 血 併 行 型 登 録 会	昨年度	21回	244回	0回
	本年度	25回	187名	0回
合 計	昨年度	28回	325回	0回
	本年度	31回	255名	0回

③骨髄提供・移植に関する普及啓発活動を行った。

ア 出前講座等の実施

従来どおり、説明員等が個人的に実施している活動に対して助成を行ってきたが、年々回数が減少傾向にあるため、骨髄バンク普及推進月間事業での活動に資金援助を行った。

○ 陸上自衛隊海田駐屯基地(6/11) 参加500名

○ 比治山大学(6/12) 参加88名

また、広島国際大学骨髄バンク推進委員会「しずく」のメンバーから活動の充実のための方策と呉市西保健所に対する活動への協力法についての説明を行った。

○ 広島国際大学骨髄バンク推進委員会「しずく」(1/10)

○ 呉市西保健所(1/15)

イ 連絡協議会の開催

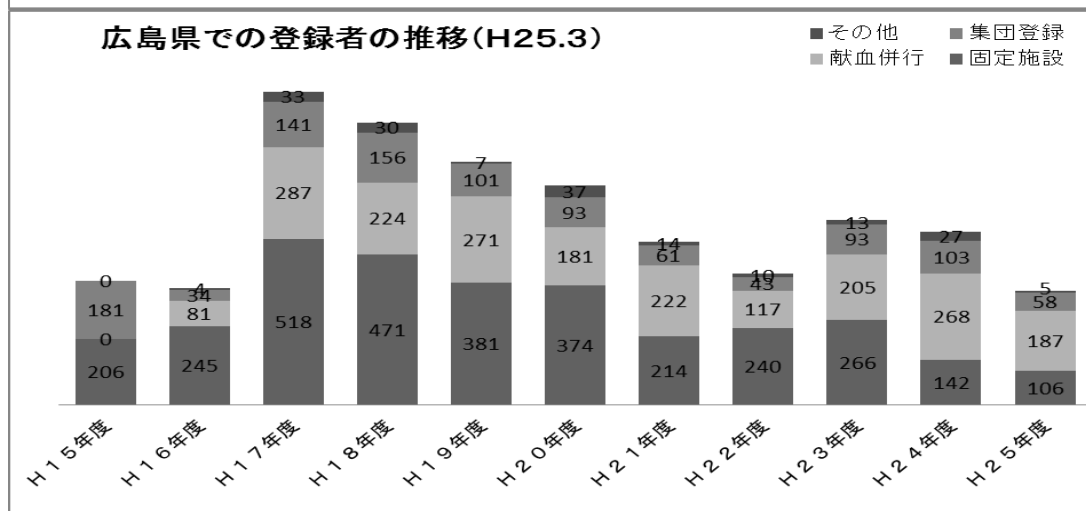
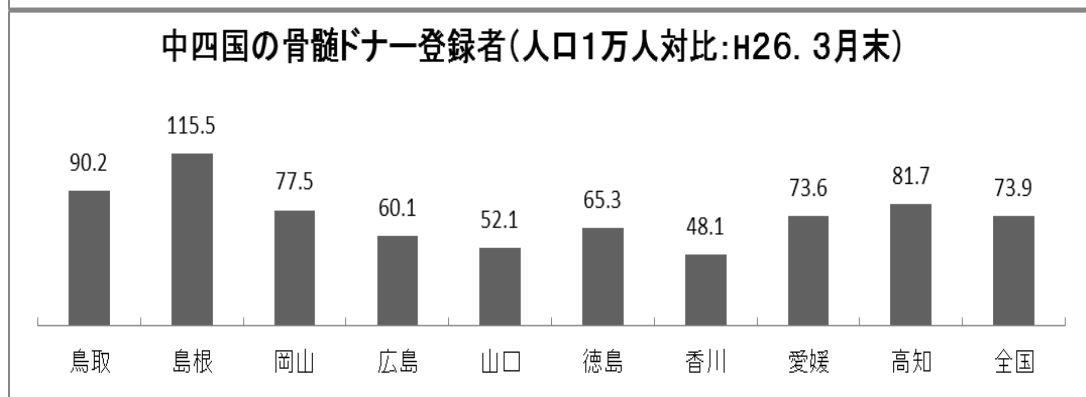
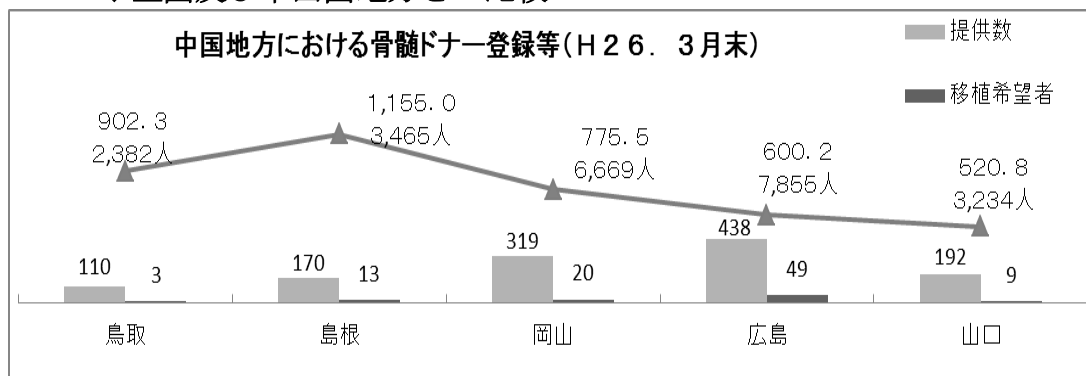
本年度は、現時点においては特に開催していない。

◆骨髄ドナー登録者（平成26年3月末現在）新規登録者255名

区 分	全 国	広 島 県	
		実 数	人口1万対比
ドナー登録者数	444,143 (73.9)	7,855 (全国第18位)	60.1 (全国第29位)
患者登録者数	2,533 (国内1,474)	49 (全国第10位)	
骨髄移植者数 (財団発足後累計)	16,732	472 (全国第10位)	
骨髄提供者数 (財団発足後累計)	16,739	438 (全国第12位)	

注) 提供者と移植者との数字の違いは移植に至らなかった件数があるため

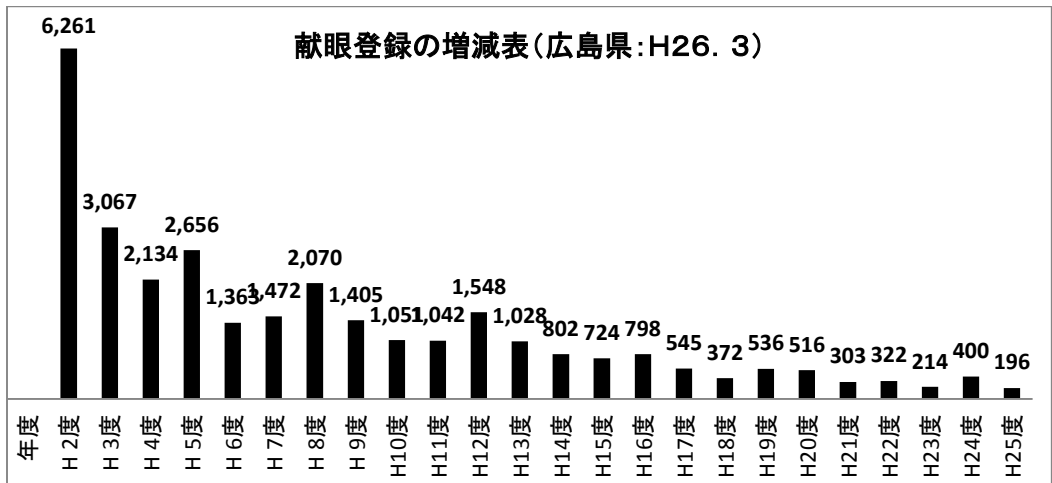
### ◆全国及び中四国地方との比較



### 3) 献眼登録者の登録業務

ライオンズクラブ等が実施した献眼推進運動などの結果により送られてきた「献眼登録申込書」に対して、記載不備などの確認の後、登録して当該申込者に「献眼登録カード」を送付した。

本年度での新規登録者は370名であるものの、死亡・取消などにより、実質196名増という状況にある。



### 3) 移植医療推進のための医療施設における院内体制の整備等に関する支援事業

#### ① 献眼・献腎・造血幹細胞移植並びにその他臓器移植の推進に関する事業 (定款第4条第7号)

##### ア 献腎及び多臓器移植の推進

円滑な臓器提供が出来る体制の整備を図るためには、一般県民の臓器提供意識の醸成と同時に、医師・看護師等医療関係者の理解と協力が不可欠である。

そのため、公社)日本臓器移植ネットワーク臓器移植コーディネーター、広島県臓器移植コーディネーター及び各病院に所属する広島県知事から委嘱を受けた院内コーディネーターが密接な連携を図りながら医療関係者に対する移植医療についての普及啓発活動を展開した。

##### イ 救命救急センターなどの臓器提供施設等への訪問

広島県臓器移植コーディネーターが臓器提供施設等を定期的に訪問し、医療関係者との連携を図るとともにドナー情報等の収集に努め、具体的な臓器提供情報を得た際には必要な業務に従事した。

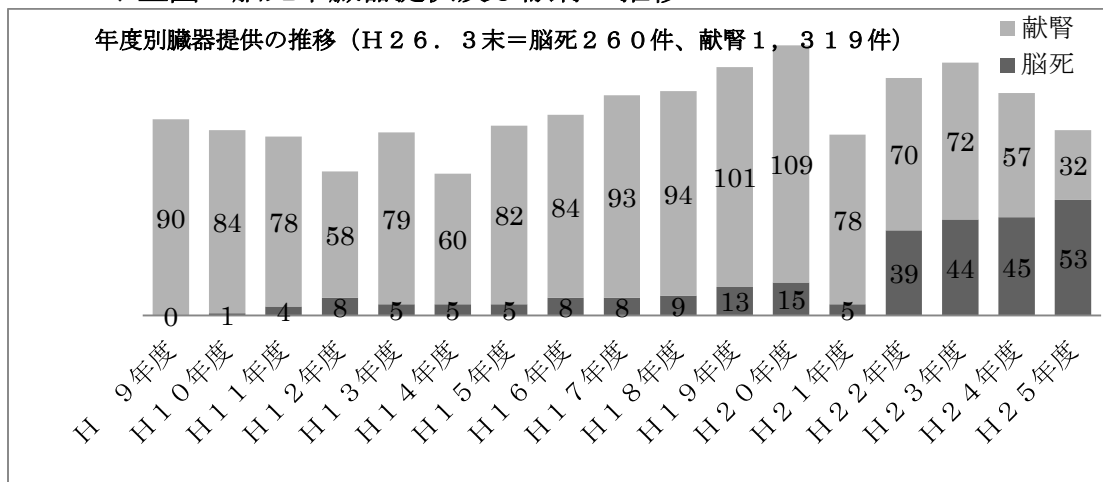
##### i 訪問施設 21施設

広島大学病院、県立広島病院、広島市民病院、マツダ病院、広島赤十字・原爆病院、安佐市民病院、梶川病院、荒木脳神経外科病院、一ノ瀬病院、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院、福山市民病院、大田記念病院、尾道市立市民病院、尾道総合病院、広島総合病院、東広島医療センター、市立三次中央病院、寺岡記念病院、

興生総合病院

- ii 訪問総数 86回
- iii 情報提供数 6件
- iv 臓器提供数（献腎を含む） 3件
- v 腎移植（他県からの移植を含む） 5件

◆全国の脳死下臓器提供及び献腎の推移



◆全国及び中四国地方での臓器提供数等 注）：○は脳死下での提供

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	献腎待機患者数 (H26.1月6日)
全国	多臓器	39	44	45	53	12,757
	献腎	70	72	57	32	
鳥取県		0	①	0	0	42
島根県		0	0	0	0	43
岡山県		1+①	0	2	1+①	167
広島県		1+②	1+①	1+①	2+①	276
山口県		0	0	3	1+①	95
徳島県		1	①	1+①	0	85
香川県		2	①	3+②	①	136
愛媛県		①	1+①	0	0	112
高知県		0	②	1	①	58
中四国計		5+④	2+⑦	11+④	4+⑤	1,014

ウ 臓器提供に関する関係者の連絡協議会等の開催及び参加

- i 広島県臓器提供施設協議会(9/12) 1回
- ii 院内コーディネーター研修会(6/24、11/12、2/15) 3回

## エ 院内コーディネーターとともに院内関係者への啓発活動

- i 院内研修会・勉強会への支援・協力
- ii 臓器提供マニュアル作成、臓器提供シミュレーション実施への協力
- iii 病院機能評価に係る臓器提供に関する説明 ほか

## オ コーディネーター研修会への参加

広島県臓器移植コーディネーターが(公社)日本臓器移植ネットワーク及び移植学会等が主催する研修会、学会等に参加し、最新の移植情報の収集と資質の向上に努めた。

- i 日本臓器移植ネットワーク主催等の研修会 7回
- ii 中国四国コーディネーター会議 6回
- iii 日本移植学会等 2回

また、本年度の新たな事業として、院内コーディネーターの技能向上のために、本人の申請のもと4名を関連の研修会に派遣した。

- i 平成25年度後期 大阪エクステンション講座 移植医療システム持論 1回

荒木脳神経外科病院2名、安佐市民病院2名

## カ 献腎を含めた臓器提供事例が発生した場合の業務

県内で臓器提供事例が発生した場合には、広島県臓器移植コーディネーターが中心になって、(公社)日本臓器移植ネットワークの指導のもと、院内コーディネーターとともにスムーズな提供に資するため、次のような業務に従事した。

- i 臓器提供可能者家族への移植医療の意義等についての説明に従事。
- ii 院外の摘出チーム及び移植チーム、県警、児童相談所等との調整に従事。
  - 心臓搬送のための広島市消防ヘリ及び県警ヘリとの調整
  - 「児童の臓器提供時における虐待情報の確認方法やフォーマット作成に係る会議」(11/11、12/3)
- iii 摘出腎臓の搬送業務に従事。
- iv 臓器提供に協力した施設及びドナー家族への事後報告及び移植者の経過報告等の実施。

## キ 腎移植希望者の登録及び更新受付業務への協力

献腎移植希望者の登録等については、(公社)日本臓器移植ネットワークにおいて行うこととされているが、当バンクとしても広島県臓器移植コーディネーターの業務の中で必要な協力を行った。

## 2) 移植医療機関及び摘出協力医との連絡調整に関する事業

(定款第4条第5号)



通常、広島県臓器移植コーディネーター、骨髄説明員及び事務職員が個別に移植医療機関或いは摘出協力医師等との連絡調整を行った。

①「角膜移植に関するレシピエント登録に関する打ち合わせ」